

## 高幡教会助任司祭 ロールド・ザビエル師 誌上インタビュー



### ● 司祭になるまで

まだ大学校の勉強をしている二十歳の時に召命を感じ、通っている教会の主任司祭がミラノ外国宣教会の司祭だったので、その神学校に入ることにしました。司祭の準備は十年間かかりました。インドの神学校での五年間、そしてイタリアの神学校での五年間と勉強した後には叙階されたのです。

叙階式は二〇〇三年八月二日私のふるさとカジペットという町で行われました。やはり、司祭の召命を与えてくださったのは神様だということにいつも感謝しています。弱い人間なのに神様が受け入れていること、そして、私を選び、信頼し、彼の代理人となった喜びを非常に感じました。

司祭になった後十年間インドのミラノ会の神学校の院長と養成担当者の仕事をやらせていただきました。その間、会議のため何回かイタ

リアを訪れ、宣教経験のためにタイとフィリッピンへ行ったことがあります。

### ● 生まれ育った環境について

私はインドの南のハイドラバッドの近くにあるカジペットという町の出身です。近所の人々はそれぞれの宗教を信仰しいつも賑やかでした。今まで皆一緒に平安な環境で生活していると思います。

インドの標語は「多様性の中の統一」ということです。ですから、色々な宗教があります。七十％はヒンズー教、十三％はイスラム教でキリスト教は二・七％ですが、残りは仏教とジャイナ教などです。

うちの家族は五世代に亘りカトリックの信者なのです。インドではクリスマスの日が祝日です。ですから、休みの日です。キリスト者だけではなく、他の宗教の方々もクリスマスのお祝いに参加します。グローバリゼーションの影響で非常に賑やかな祭日となりました。その日教会へ行ったり、家族と皆食事をしたり、ケーキやお菓子を分かち合ったりするので、ケーキやお菓子を趣味は歴史の読書とクラシック音楽を聴くことです。好きなスポーツは卓球とサッカーです。

私の人生に強い影響を与えたのは私の神学校の時の養成担当者です。聖人としては聖マクシミリアン・コルベです。

### ● 日本に来て

日本に来たのは二〇一三年九月十一日でした。ミラノ外国宣教会の会員は皆宣教活動のため外国へ派遣されました。

私の場合は司祭になって十年間経った後に派遣されました。日本に到着した時に自分の夢が叶えられたと感じました。日本の教会は小さな教会なのに、信者の信仰は強いと思います。そして、小教区は構造的な教会だと思っています。

子供の頃から日本に対して興味を持っていました。特に、日本の発展と日本人の勤勉な働き方です。そして、日本に来る前は日本語の難しさと日本の偉大な文化のことも気になっておりました。来た後もその印象は変わっていません。まだ学ぶことが多いですので、批判することはできないと思います。

高幡教会の助任として任命されたことは素晴らしいと思います。

教会と言えば教会の信者だと思えますので、その共同体は真面目に協力していると思います。教会学校と青年の方々もすぐ信仰の道を歩んでいると思います。教会の宣教の窓口がいつも開いていれば教会の共同体も生きていますし、外から見ている人々も教会に近づくと見えます。ですから、高幡教会の皆さん、イエス様と教会を愛していることを自分の態度から証ししてみませんか。

### ● 司祭としての夢

私は宣教者なので、実は、宣教のため日本語が非常に大切だと思います。ですから、日本語の能力を増やしていきたいと思えます。これからの司祭活動を死ぬまで日本ですていきたいと思います。イエス様とつながりを強めていき、神の国を建てる道具になりたいです。†